

JACCRO 短期海外派遣 学会参加報告 第 45 回 米国臨床腫瘍学会 (ASCO 2009)

大阪府立急性期・総合医療センター 外科
西川 和宏

2009/05/29 から 6/2 まで開催された ASCO2009Orlando に参加させていただきました。今年には新型インフルエンザの影響で、日本人の参加者は少なかったようです。この時期のオーランドはほとんど日本の真夏という印象で、到着日夕方にスコールと思われる短時間の激しい雨が降った以外は、暑い毎日でした。

さて学会報告ですが、私は上部消化管が専門なので、non-colorectal の上部消化管での演題を中心に報告させていただきます。

上部消化管でもっとも注目されたのが、胃癌に対する ToGA 試験 (#LBA4509) と考えます。HER2 陽性進行胃癌に対する国際共同臨床試験であり、標準的治療である FC 療法に対する抗 HER2 モノクローナル抗体トラスツズマブの上乗せ効果を検証する目的で実施されました。HER2 陽性 (22.1%) の進行胃癌で、MST が FC 群 11.1 カ月に対し、FC+T 群 13.8 カ月で、ハザード比 0.74 (95%CI : 0.60~0.91)、 $p=0.0046$ と有意なトラスツズマブの上乗せ効果がみられました。トラスツズマブは進行胃癌に対する生存ベネフィットを示した初の分子標的治療薬となり、標準化学療法との併用は、HER2 陽性進行胃癌の新たな治療選択肢となりました。今後は、trastuzumab 単剤での効果、2nd-line 治療における維持療法、Beyond progression、補助化学療法への導入等がディスカッションされていました。

JACCRO GC-05 に関連するものとしては、ドイツの AIO から、イリノテカン (CPT-11) と best supportive care (BSC) を比較する、胃癌に対する 2nd-line を検討した初めての第 III 相試験が報告されていました (Abs. #4540)。症例集積不良で途中で中止されたにもかかわらず、CPT-11 により有意に生存期間が延長し、CPT-11 は 2nd-line での治療選択肢となり得ると結論づけられていました。

他には、FLAGS 試験の二次解析の non-inferiority およびサブセット解析での diffuse type に対する CS 療法の有用性 (Abs. #4511)、JCOG9912 試験のバイオマーカー解析として TS、DPD の発現量が化学療法の効果予測因子となる可能性を示唆 (Abs. #4535) が発表されていました。また、JCOG9912 のアップデート結果 (Abs. #4514)、IRIS のアップデート結果 (Abs. #4544)、腹腔内 PTX 投与の有用性 (Abs. #4542)、L-OHP+S-1 療法 (SOX) に関する第 II 相試験 (Abs. #4553)、3 剤併用療法である DCS 第 II 相試験 (Abs. #4555) 等が報告されていました。個人的には、SAMIT の症例集積期間がもうすぐ終了することをふまえて、胃癌 adjuvant においては DFS が surrogate endpoint になるという Meta-analysis (Abs. #4517) が興味深かったです。また、Macdonald 氏による INT0116 試験の 10 年フォ

ローアップ結果 (Abs. #4515) では、一旦結果が出ているにもかかわらず、10年フォローアップを行う姿勢には敬服しました。

Colorectal においては、NSABP C-08 試験の結果が発表されました (#LBA4)。mFOLFOX6 と BV の併用により、治療開始後 1 年以内は disease-free survival (DFS) の有意な延長がみられたものの、3 年以上の追跡では有意差が得られなかったという結果が印象的でした。negative study であったにもかかわらず、Wolmark 氏の発表がユーモアを交えた独特の口調で非常に感動的でした。

今回、私としては初めての ASCO 参加でしたが、非常に有意義な時間を過ごせました。短期海外派遣として ASCO2009Orlando に参加させていただき誠にありがとうございました。JACCRO および関係各位に深謝申し上げます。